

サンマ



生態的特徴等

【生態】

太平洋からオホーツク海の広い範囲を回遊する。春から夏にかけて黒潮域から亜寒帯水域へ北上し、8月以降に日本近海を南下する。産卵期は9月～翌年6月で、日本沿岸から東方沖合域の広い範囲で産卵する。1歳で約28 cmまで成長する(図1)。寿命は2年と考えられている。動物プランクトンを餌とする。

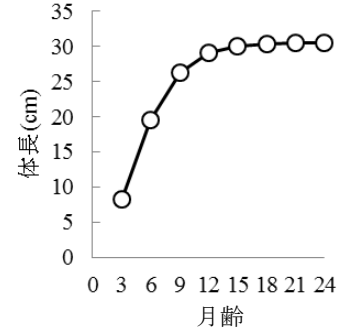


図1 サンマの成長

【漁法と盛期】

主に流し網、棒受網で漁獲される。流し網は7月に解禁され、棒受網は7～8月にかけて小型船から大型船の順に解禁される。

魚群の南下とともに漁船も移動する。H29年頃までは、10～12月に福島県沖～茨城県沖で棒受網の漁場が形成され、県内では那珂湊漁港や大津漁港に水揚げがみられた。

【利用】

刺身やなめろう、塩焼き、干物のほか、缶詰原料としても利用される。DHA、EPA、ビタミンDなど健康に良い栄養成分が豊富に含まれている。

資源水準は低位、動向は減少傾向

(漁獲量) 全国の棒受網によるサンマ漁獲量は、H12年以降増加傾向であったが、H21年以降減少傾向となった。R3年の18,291トン以降再び増加傾向となり、R7年の漁獲量は64,737トンであった(図2)。

県内漁港における水揚量は、茨城県沖周辺での漁場形成の有無によって年変動が大きい。R3～R6年は茨城県沖周辺で漁場が形成されず0トンであったが、R7年は82トンの水揚げがあった(図3)。

(水準と動向) 国の資源評価(R6年度)によると、資源はMSY水準を下回る低位水準、資源動向は直近のCPUEから減少傾向である。

水準



(国)

動向



(国)

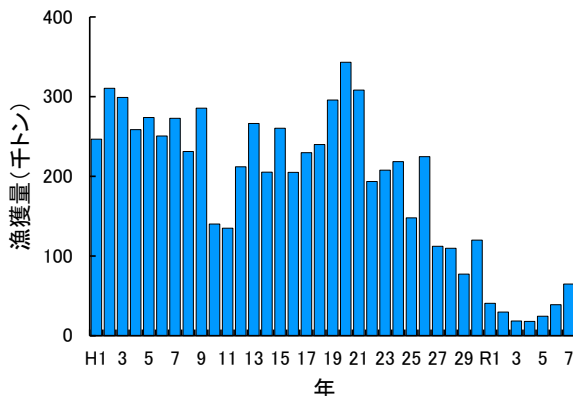


図2 全国サンマ水揚量の推移

北海道から千葉県沖で操業する棒受網の漁獲量で、全国さんま棒受網漁業協同組合の集計値

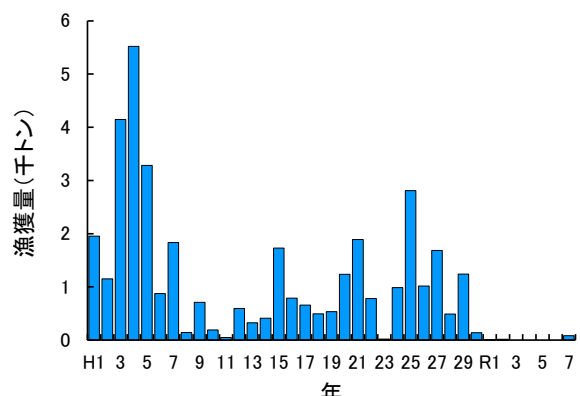


図3 茨城県におけるサンマの水揚量(棒受網)

全国さんま棒受網漁業協同組合の集計値

【漁獲動向】

- ・北海道が漁獲量第1位。2位は岩手県、3位は宮城県 (R6 漁業・養殖業生産統計)

評価期間：令和6年1月～12月 更新日：令和8年3月19日